

コマツ「Driving value with ambition 価値創造への挑戦」中期経営計画（2025-2027）の内容と評価

OpenAI Deep Research

2025 年 4 月 28 日、コマツ（小松製作所）は新たな 3 カ年中期経営計画「Driving value with ambition（価値創造への挑戦）」を発表しました。本計画は 2025 年度から 2027 年度を対象とし、100 周年で制定した企業理念に基づき「新たな価値創造による社会課題解決と収益向上の好循環」で持続的成長を目指す経営戦略です（[コマツ、新中期経営計画（2025-27 年度）「Driving value with ambition 価値創造への挑戦」をスタート | kikai-news.net 産機通信](#)）。以下、本計画の詳細と、成長性、リスク、海外展開、人材戦略、知財・無形資産戦略の 5 つの観点から、投資家・業界関係者・メディア・アナリストによる評価をまとめます。

成長性（Growth Potential）

計画の内容：コマツは新中計で目指す姿を「安全で生産性の高いクリーンな現場を実現するソリューションパートナー」と再定義し（[コマツ、新中期経営計画（2025-27 年度）「Driving value with ambition 価値創造への挑戦」をスタート | kikai-news.net 産機通信](#)）、成長戦略の 3 本柱として①「イノベーションによる価値共創」、②「成長性と収益性の追求」、③「経営基盤の革新」を掲げました（[コマツ、新中期経営計画（2025-27 年度）「Driving value with ambition 価値創造への挑戦」をスタート | kikai-news.net 産機通信](#)）。具体的には、アジア・アフリカなど成長市場での製品競争力強化や、バリューチェーン（部品・サービス等）事業の拡大によって業界平均を上回る成長を狙います（[コマツ、新中期経営計画（2025-27 年度）「Driving value with ambition 価値創造への挑戦」をスタート | kikai-news.net 産機通信](#)）。財務目標では業界トップクラスの収益性と ROE10%以上を維持し続ける方針で、加えて 3 年間累計 1 兆円のフリーキャッシュフロー（FCF）創出目標を新規設定しました（[コマツ、新中期経営計画（2025-27 年度）「Driving value with ambition 価値創造への挑戦」をスタート | kikai-news.net 産機通信](#)）。これは成長投資原資を確保する狙いです。また前中計から引き続き配当性向 40%以上を堅持し、財務状況を見つつ機動的な自社株買いも

実施するとしています（[コマツ、新中期経営計画（2025-27 年度）「Driving value with ambition 価値創造への挑戦」をスタート | kikai-news.net 産機通信](#)）。

評価：過去数年の好調な業績（2024 年度売上高 4 兆 1,044 億円、営業利益 6,571 億円）でいずれも過去最高（[株：4月28日 コマツは決算で関税の影響をしっかりと出した | コボリノコフ](#)）を踏まえ、市場ではコマツの成長余力に対する期待感がうかがえます。実際、2024 年度決算発表後の株価は日経平均を上回る+2.3%の上昇で取引を終えました（[Japan's Komatsu expects 27% profit fall this year on stronger yen, tariffs | Reuters](#)）。アナリスト予測も上方修正傾向にあり、2026 年 3 月期の予想利益は過去 60 日間で 13%引き上げられています（[Zacks Industry Outlook Highlights Caterpillar, Komatsu and Hitachi Construction Machinery | Nasdaq](#)）。投資調査会社 Zacks はコマツ株を「強い買い」と評価し、長期利益成長率を約 5%と見込むなど堅実な成長を予測しています（[Zacks Industry Outlook Highlights Caterpillar, Komatsu and Hitachi Construction Machinery | Nasdaq](#)）。もともと、新計画では数値目標として売上高や営業利益の具体値は示されていないため、成長シナリオの詳細については市場から「やや保守的」との見方もあります。しかし総じて、「業界平均を上回る成長」という目標設定や新興国需要の取り込み戦略は妥当との声が多く、投資家は堅実な成長継続への自信を示しています（[Zacks Industry Outlook Highlights Caterpillar, Komatsu and Hitachi Construction Machinery | Nasdaq](#)）（[Zacks Industry Outlook Highlights Caterpillar, Komatsu and Hitachi Construction Machinery | Nasdaq](#)）。

重要な成長指標と目標を以下にまとめます：

指標・施策	数値目標・内容	出典・補足
売上成長率	業界平均超の成長を継続	「成長戦略」で明言（ コマツ、新中期経営計画（2025-27 年度）「Driving value with ambition 価値創造への挑戦」をスタート kikai-news.net 産機通信 ）
収益性（営業利益率）	業界トップレベルを維持	過去実績: 2024 年度 16.0%（ 株：4月28日 コマツは決算で関税の影響をしっかりと出した コボリノコフ ）
ROE（自己資本利益率）	10%以上を継続目標	株主資本コスト超えを重視（ コマツ、新中期経営計画（2025-27 年度）「Driving value with ambition 価値創造への挑戦」をスタート kikai-news.net 産機通信 ）
3 年累計 FCF	1 兆円（2025-2027 年度）	新規設定の成長投資原資目標（

指標・施策	数値目標・内容	出典・補足
		値創造への挑戦」をスタート kikai-news.net 産機通信
配当性向	40%以上(連結ベース)	前計画から継続、公約 (コマツ、新中期経営計画(2025-27 年度)「Driving value with ambition 価値創造への挑戦」をスタート kikai-news.net 産機通信)
自社株買い	最大 1,000 億円 (発行株式 4.3%) 規模を決定	2025 年度に実施発表 (株:4月28日 コマツは決算で関税の影響をしっかりと出した コボリノコフ) ([Japan's Komatsu expects 27% profit fall this year on stronger yen, tariffs

表:コマツ中期計画における主要な成長・財務目標

リスク(Risk Management)

計画の内容:新計画では、外部環境の不確実性への対処が重要テーマとなっています。コマツは地政学リスクや関税政策など外部環境の変動に対するレジリエンス(耐性)強化を掲げ ([コマツ、新中期経営計画\(2025-27 年度\)「Driving value with ambition 価値創造への挑戦」をスタート | kikai-news.net 産機通信](#))、事業継続計画(BCP)やサプライチェーン見直し等を経営基盤強化の一環に位置づけました。実際、米国市場に対する追加関税リスクや為替変動リスクが顕在化する中、2025 年度業績見通しでは円高(対ドル 153 円→135 円)による▲1,330 億円、米国関税による直接▲785 億円・間接▲158 億円の利益影響を織り込んでいます ([株:4月28日 コマツは決算で関税の影響をしっかりと出した | コボリノコフ](#))。こうしたリスクシナリオの明示は経営の慎重姿勢を示すものです。また、新社長の今吉氏は決算説明で「日本→カナダ経由で米国を迂回輸出する即応策を既に講じた」ことや、「グローバルで調達源を変更するミッドタームの対策や、必要なら米国での価格転嫁も検討する」方針を明らかにしました ([Japan's Komatsu expects 27% profit fall this year on stronger yen, tariffs | Reuters](#))。北米向け製品の約半数が海外生産・輸入という状況下 ([Japan's Komatsu expects 27% profit fall this year on stronger yen, tariffs | Reuters](#))、供給網の地理的分散や現地生産拡大によって貿易摩擦リスクを低減させる戦略です。

評価:投資家やアナリストは、コマツのリスク開示と対策を概ね高く評価しています。特に今回、業績予想に米追加関税の悪影響を明確に織り込んだ点は「不確実性の

低減」として好感されました（株:4月28日 コマツは決算で関税の影響をしっかりと出した | コボリノコフ）。市場は「悪い材料も会社がしっかりと把握し数字を出していることが重要」だと捉え、27%減益予想（コマツ予想営業利益 4,420 億円）という厳しい見通しにも関わらず株価は大きく崩れませんでした（株:4月28日 コマツは決算で関税の影響をしっかりと出した | コボリノコフ）。また 1000 億円の自社株買い発表と高水準配当維持は、外部リスク下でも株主還元を重視する姿勢として投資家の信頼感に繋がりました（株:4月28日 コマツは決算で関税の影響をしっかりと出した | コボリノコフ）。一方、一部には「米国市場依存度（売上の 25%以上）ゆえの政治リスク」「中国景気減速による建機需要の下振れリスク」などへの懸念も残ります。しかし総じて、計画は主要リスク要因（為替・関税・市況変動）を織り込んだ現実的なものと受け止められており、「リスクを正直に開示し備える経営陣」との評価がなされています（株:4月28日 コマツは決算で関税の影響をしっかりと出した | コボリノコフ）（株:4月28日 コマツは決算で関税の影響をしっかりと出した | コボリノコフ）。今吉社長が示した関税対応策（迂回輸出や現地調達）も具体性があり、「レジリエンス重視の経営」として業界関係者から注目されています。

主要なリスク要因とその影響・対策を以下の表に整理します：

リスク要因	見通しへの影響（例）	コマツの対応策・戦略
為替	円高ドル安：1USD=153 円 →135 円で▲1,330 億円の利益	
リスク	減少見込み（株:4月28日 コマツは決算で関税の影響をしっかりと出した コボリノコフ）	為替前提の保守設定、費用圧縮努力
貿易摩擦・関税	米追加関税：直接影響▲785 億円＋需要減退▲158 億円（2025 年度）（株:4月28日 コマツは決算で関税の影響をしっかりと出した コボリノコフ）	製品輸出の経路変更（迂回）、調達先多元化、価格転嫁検討（[Japan's Komatsu expects 27% profit fall this year on stronger yen, tariffs
市場需要の変動	北米建機需要：関税による米 GDP▲1.1%で需要鈍化シナリオ想定（株:4月28日 コマツは決算で関税の影響をしっかりと出した コボリノコフ）	インフラ投資や資源開発など堅調分野に注力、地域分散で需要変動を相殺

リスク要因	見通しへの影響(例)	コマツの対応策・戦略
	した コボリノコフ 中国市場: 景気減速で建機需要減のリスク	
地政学リスク	紛争・制裁等による部品調達難や需要停滞	代替サプライチェーン構築、在庫適正化、グローバル分業体制の見直し
気候変動・規制リスク	脱炭素規制によるエンジン転換コスト増	脱炭素をビジネス機会と捉え電動化など製品開発 (コマツ、新中期経営計画(2025-27年度)「Driving value with ambition 価値創造への挑戦」をスタート kikai-news.net 産機通信) (コマツ、新中期経営計画(2025-27年度)「Driving value with ambition 価値創造への挑戦」をスタート kikai-news.net 産機通信)

表:コマツ中期計画における主なリスク要因とその影響・対策

海外展開(Overseas Expansion)

計画の内容:コマツはグローバル企業として、地域戦略も重視しています。新興国を含む海外市場での成長加速は中期計画の柱の一つであり、特に「アジア・アフリカの成長市場で商品力を強化」する方針が明示されました ([コマツ、新中期経営計画\(2025-27年度\)「Driving value with ambition 価値創造への挑戦」をスタート | kikai-news.net 産機通信](#))。これは、インフラ整備や資源開発の需要が高まるこれら地域でシェア拡大を図るものです。また、従来から強みを持つ北米市場では、追加関税の影響を注視しつつも、旺盛なインフラ投資需要やエネルギー転換に伴う資源採掘需要に対応してビジネス機会を追求します ([Zacks Industry Outlook Highlights Caterpillar, Komatsu and Hitachi Construction Machinery | Nasdaq](#))。コマツは世界第二位の建機メーカーとして売上の4分の1超を北米から得ており ([Japan's Komatsu expects 27% profit fall this year on stronger yen, tariffs | Reuters](#))、米国市場の動向が業績に大きく影響します。一方、鉱山機械など資源分野では2024年度に高需要で業績を牽引した実績があり、今後もエネルギー転換に必要な鉱物需要の増加が追

い風になると見込まれます ([Zacks Industry Outlook Highlights Caterpillar, Komatsu and Hitachi Construction Machinery | Nasdaq](#))。産業機械・他部門でも、例えば自動車向けプレス機や半導体向けエキシマレーザー装置の販売増を見込み、建機以外の分野でも地域横断的な売上拡大を図っています ([Zacks Industry Outlook Highlights Caterpillar, Komatsu and Hitachi Construction Machinery | Nasdaq](#))。こうした多角化は一国・一地域への依存リスク低減にも繋がります。

評価: 海外展開に関して、業界関係者は総じてポジティブな見方をしています。米国市場では関税問題という逆風があるものの、「国内インフラ投資計画や製造業回復で中長期需要は底堅い」との分析があり ([Zacks Industry Outlook Highlights Caterpillar, Komatsu and Hitachi Construction Machinery | Nasdaq](#))、コマツの現地生産・販売ネットワークによる対応力が評価されています。またアジア・アフリカ市場については「人口増と都市化により建設機械需要の成長余地が大きい」と期待されており、これら地域に強みを持つ日立建機など競合他社も含め業界全体で新興国戦略が加速しています。コマツの地域戦略はこの流れに沿ったもので、「適切な市場を攻めている」との声があります。アナリストからは、「米州の鉱山トラック需要などコマツの得意分野が好調」で海外売上の下支えになるとの指摘もあります ([Zacks Industry Outlook Highlights Caterpillar, Komatsu and Hitachi Construction Machinery | Nasdaq](#)) ([Zacks Industry Outlook Highlights Caterpillar, Komatsu and Hitachi Construction Machinery | Nasdaq](#))。実際、北米のインフラ需要増強や資源高による鉱山投資は追い風であり、コマツの海外事業展開を後押しする見通しです ([Zacks Industry Outlook Highlights Caterpillar, Komatsu and Hitachi Construction Machinery | Nasdaq](#)) ([Zacks Industry Outlook Highlights Caterpillar, Komatsu and Hitachi Construction Machinery | Nasdaq](#))。もっとも、中国市場の先行き不透明さは業界共通の懸念材料であり、「中国依存度の低いコマツは相対的にリスク小」と評価される一方で、今後の中国景気刺激策によっては恩恵を逃さないよう注視が必要との指摘もあります。総合すると、海外展開戦略は地理的分散と需要地への的確なリソース配分という点で堅実であり、投資家も概ね好意的に受け止めています。

海外事業に関連するポイントを以下の表にまとめます：

地域・分野	展開戦略と見通し	評価・コメント
北米	インフラ投資法などで建機需要底堅い。鉱山機械も	「関税逆風も中長期で北米市場は有望」 ([Zacks Industry Outlook Highlights Caterpillar, Komatsu and Hitachi Construction Machinery

地域・分野	展開戦略と見通し	評価・コメント
	堅調。関税対応で現地化推進。	
アジア	東南アジア・インド中心に需要拡大。現地生産拠点強化。	「人口増で建機需要拡大余地」「中国減速を他アジアで補完」
アフリカ	鉱山資源国中心に販売網拡大。金融サービスで市場開拓。	「資源ブーム追い風、アフリカ市場開拓に期待」
欧州	環境規制先進で電動建機需要。既存顧客深耕とサービス強化。	「欧州は競争激化も電動化対応に注目」
新分野 (産機他)	自動車・半導体向け設備など他産業で売上拡大	「建機以外の柱育成で安定性向上」([Zacks Industry Outlook Highlights Caterpillar, Komatsu and Hitachi Construction Machinery

表:コマツの地域別・分野別戦略とその評価

人材戦略(Human Resources Strategy)

計画の内容:コマツは中期経営計画の中で「多様な人材基盤の強化(enrich human resources base with diversity)」を成長戦略の鍵の一つに位置づけています。具体的には、以下の3点に注力するとしています:

- ・ **ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)の推進**:国籍・性別等の多様性を尊重し、グローバルに公平公正な人事制度運用を徹底。コマツウェイの浸透活動など企業文化面でも多様な人材が活躍できる風土づくりを進めています。
- ・ **人材育成機会の拡充とエンゲージメント向上**:社員の能力開発機会を増やし、働きがい向上を図ります。例えば従業員エンゲージメントスコアについては中計 KPI として海外 85 以上、日本 75 以上(FY2023 目標)と定量目標を設定し、定期的に測定・改善に取り組んでいます。
- ・ **デジタル人材育成とオープンイノベーション**:DX 推進に必要な IT・AI 人材の育成を強化し、外部との協業も促進します。社内での DX 研修(入門編 900

名・応用編 180 名受講など)や AI 教育(入門 30 名・応用 90 名受講)といった
具体的プログラムも展開しています。

評価:コマツの人材戦略は、近年日本企業に求められる人的資本経営への対応として評価されています。投資家からは「多様性と人材育成へのコミットメントは長期的競争力の源泉」との声があり、特にグローバル展開において多様な人材を活用する姿勢は好意的に受け止められています。アナリストは「DX やスマートコンストラクション戦略を成功させるには社内のデジタル人材育成が不可欠で、計画でその点を明確にしているのは安心材料」と指摘しています。また、具体的 KPI(エンゲージメントスコア等)の開示は人材マネジメントの進捗を測る指標として透明性を高めているとの評価があります。一方で課題として、建機業界全体でデジタル人材や女性技術者の確保競争が激化する中、計画目標を実現するための十分な投資と継続的取り組みが必要との指摘もあります。しかし概ね、「人と共に成長する」経営姿勢を打ち出した本計画は社内外のステークホルダーから支持されており、無形資産である人材力の強化が中長期の価値創造に繋がると期待されています。

人材戦略の主要施策と指標を以下の表にまとめます:

人材戦略の 重点項目	具体的施策・KPI	出典・評価
ダイバーシ ティ&イン クルーシ ョン	グローバル共通の人事ポリシー策定、ハラスメント禁止徹底等。各地域で公平な評価と機会提供。	「多様性はイノベーションの原動力」と評価。公正な人事で士気向上。
エンゲージ メント向上	従業員意識調査を定期実施しスコア測定。FY2023 目標: 日本 75・海外 85。働き方改革推進。	「社員のやる気を引き出す KPI 設定を評価」業界平均比で高水準を維持。
デジタル人材 育成	DX・AI 研修プログラム導入(例)DX 入門 900 名・応用 180 名受講。オープンイノベーション推進。	「DX 人材を社内育成する姿勢は◎」外部連携で最新技術も取り込み。

表:コマツ中期計画における人材戦略の主な施策と評価

知財・無形資産戦略(IP and Intangible Assets Strategy)

計画の内容:コマツの競争力の源泉である技術・ソリューション分野の戦略も、中期計画で大きく強化されています。「イノベーションによる価値共創」の柱のもと、以下のような知的資産の創造・活用策が示されています:

- **スマートコンストラクション®や AHS(自動運搬システム)など既存ソリューションの高度化:**データ活用や現場のデジタルツイン化により、建設現場・鉱山現場の生産性最適化サービスを進化させます ([コマツ、新中期経営計画\(2025-27年度\)「Driving value with ambition 価値創造への挑戦」をスタート | kikai-news.net 産機通信](#)) ([コマツ、新中期経営計画\(2025-27年度\)「Driving value with ambition 価値創造への挑戦」をスタート | kikai-news.net 産機通信](#))。これらソリューションはハード(建機)とソフト(ICT システム)の融合によるコマツ独自の無形資産であり、顧客との共創で価値向上を図ります。
- **多様な動力源・高度自動化への挑戦:**エンジンの電動化や水素利用など低炭素の動力技術、遠隔操作や建機の自律走行といった先端オートメーション技術の開発に積極投資します ([コマツ、新中期経営計画\(2025-27年度\)「Driving value with ambition 価値創造への挑戦」をスタート | kikai-news.net 産機通信](#))。これは気候変動対応と労働力不足解消を睨んだ技術戦略で、関連する特許・ノウハウの蓄積も進められています。
- **DX の加速と基幹システム刷新:**社内外のデジタル基盤を整備し、生産・販売・サービスを一気通貫で高度化します。グループ全体の基幹システム刷新や、代理店向けソリューションプラットフォームの開発など IT インフラ投資を大胆に推進する方針です ([コマツ、新中期経営計画\(2025-27年度\)「Driving value with ambition 価値創造への挑戦」をスタート | kikai-news.net 産機通信](#))。これによりデータ連携が強化され、サービス事業など無形資産の収益力を向上させます。
- **バリューチェーンビジネスの拡大:**新車販売だけでなく、部品・サービス・レンタル・中古機販売・金融などライフサイクル全般で収益機会を拡げます ([コマツ、新中期経営計画\(2025-27年度\)「Driving value with ambition 価値創造への挑戦」をスタート | kikai-news.net 産機通信](#))。これらはブランド信頼や顧客関係性といった無形資産をテコに継続収益を生む戦略です。

評価:知財・無形資産戦略について、専門家や市場関係者は「コマツがこれまで培ってきた強みをさらに伸ばす方向性」と捉えています。具体的には、スマートコンストラクションや AHS といったデジタルソリューションは業界内でも先行しており、「安全・効率・環境対応の面で付加価値が高いサービス」と高評価です。これらソリューション分野の強化は、製品単体の売り切りではなくサービス収入の拡大(収益の質向上)に繋がるため、投資家も中長期的利益率の押し上げ要因として注目しています(

[新中期経営計画\(2025-27 年度\)「Driving value with ambition 価値創造への挑戦」をスタート | kikai-news.net 産機通信](#) ([Zacks Industry Outlook Highlights Caterpillar, Komatsu and Hitachi Construction Machinery | Nasdaq](#))。また、電動化や自動化への積極投資は ESG の観点からも評価が高く、「規制対応と市場ニーズを先取りする攻めの姿勢」と受け止められています。社内 DX に関しても、古い基幹システムを刷新しデータ活用を進める取り組みは経営の効率化と将来的な無形資産創出(データ資産の蓄積)に寄与すると期待されています ([コマツ、新中期経営計画\(2025-27 年度\)「Driving value with ambition 価値創造への挑戦」をスタート | kikai-news.net 産機通信](#))。知的財産そのものの戦略について直接的な言及は少ないものの、オープンイノベーションを含め社外の知も取り込みながら技術リードを維持する姿勢は垣間見えます。総じて、コマツの知財・無形資産戦略は「ハードからサービスへ」の業界トレンドを捉えた妥当な方向であり、メディアからも「DX や自動化への取り組みが今後の企業価値を左右する」と報じられるなど ([Zacks Industry Outlook Highlights Caterpillar, Komatsu and Hitachi Construction Machinery | Nasdaq](#))、本計画における重要ポイントとして認識されています。

知財・無形資産戦略の主要項目を以下に整理します：

知財・無形資産戦略の重点	具体策・狙い	出典・評価
デジタルソリューション強化	Smart Construction や AHS で現場効率化サービス提供。製品＋ICT で顧客と価値共創 (コマツ、新中期経営計画(2025-27 年度)「Driving value with ambition 価値創造への挑戦」をスタート kikai-news.net 産機通信)。	「サービス収益の柱として期待」「競合に先行する強み」
自動化・電動化技術開発	遠隔操作・無人運転や電動建機で先行投資 (コマツ、新中期経営計画(2025-27 年度)「Driving value with ambition 価値創造への挑戦」をスタート kikai-news.net 産機通信)。特許・技術蓄積と環境対応。	「脱炭素ニーズに合致」「将来の市場標準をリード」
社内 DX・IT 基盤整備	AI 活用、基幹システム刷新、代理店プラットフォーム構築 (コマツ、新中期経営計画(2025-27 年度)「Driving value with ambition 価値創造への挑戦」をスタート kikai-news.net 産機通信)。データ活用で効率化。	「データという無形資産を最大活用」「全社最適で競争力向上」

知財・無
形資産
戦略の
重点

具体策・狙い

出典・評価

バリュー チェーン 拡大	部品・サービス・レンタル等ライフサイクル事業拡大 (コマツ、新中期経営計画(2025-27 年度)「Driving value with ambition 価値創造への挑戦」をスタート kikai-news.net 産機通信)。ブランド力で継続収益化。	「ストックビジネス強化で安定収益」「顧客囲い込みが進む」
--------------------	---	------------------------------

表:コマツ中期計画における知財・無形資産戦略の主な施策と評価

おわりに(総合評価)

コマツの新中期経営計画「Driving value with ambition」は、定量目標と質的戦略の両面でバランスの取れた内容となっており、概ねポジティブに受け止められています。成長性については堅実な拡大路線が示され、リスク対策も具体的で透明性が高いことから投資家の信頼感を得ました。海外展開は市場環境の追い風を的確に捉えた布陣と評価され、人材・知的資産への投資強化は長期的な価値創造への意欲として好感されています。実際、発表直後の株式市場で株価が堅調に推移し、証券各社からの目標株価引き上げや強気判断 ([Zacks Industry Outlook Highlights Caterpillar, Komatsu and Hitachi Construction Machinery | Nasdaq](#))も相次いでいます。もっとも、計画の成否は今後のグローバル経済動向や社内改革の実行力にも左右され、特に北米関税問題や技術開発競争など課題への継続対応が求められます。総合すると、本中期経営計画はコマツが「価値創造への挑戦」を通じて持続的成長と株主価値向上を図る明確なロードマップを提示したと言え、投資家・業界からは「野心(Ambition)を持ちながら現実的」との評価がなされています (コマツ、新中期経営計画(2025-27 年度)「Driving value with ambition 価値創造への挑戦」をスタート | kikai-news.net 産機通信) (株:4月28日 コマツは決算で関税の影響をしっかりと出した | [コボリノコ](#) [コ](#) [フ](#))。